

広報つるおか

TSURUOKA

鶴岡市財政特集

未来に希望を 描ける鶴岡へ

人口減少と物価高騰の中、本市の財政は厳しい状況に直面しています。行政サービスや大型事業、そして子供たちの未来を支える支援等をどう維持していくのか。今、鶴岡は大きな転換期を迎えています。このまちを次の世代に引き継ぐため、これからの財政の在り方に真剣に向き合います。



歳入・歳出ともに
過去2番目の規模

普通会計歳出決算額

829億9,451万3千円

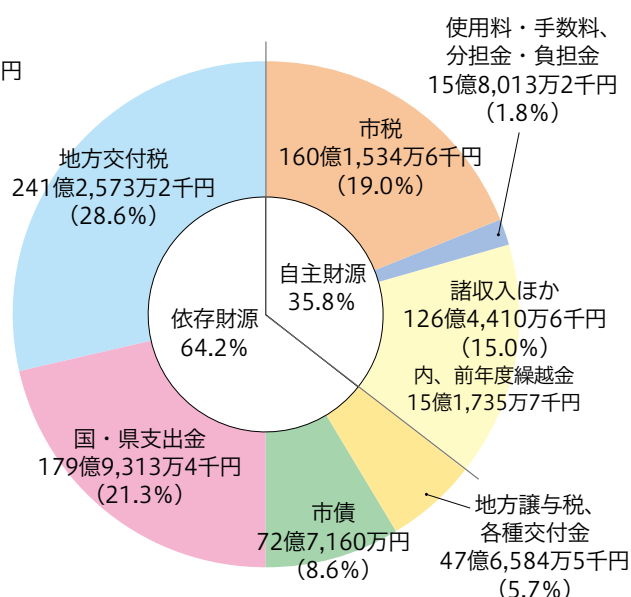
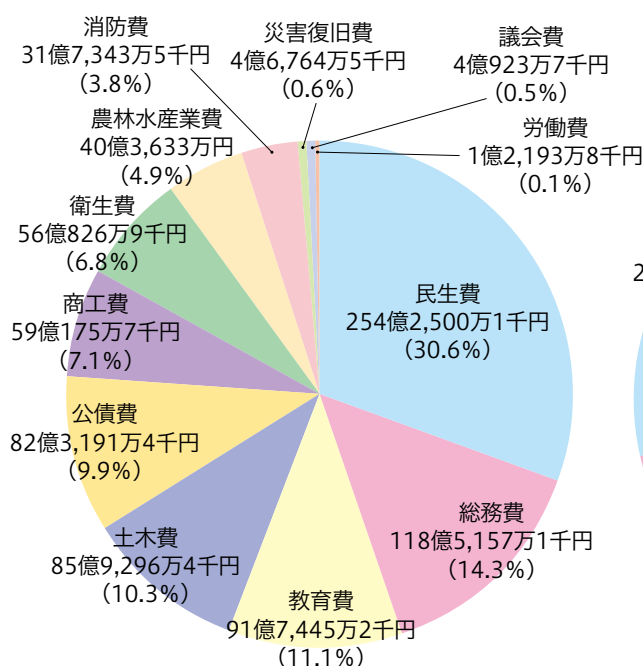
47億7,659万8千円
増えました

普通会計歳入決算額

843億9,589万5千円

46億6,062万3千円
増えました

令和6年度と
比べると



一見黒字のように見えますが…

令和6年度決算と同様

財政調整基金取崩し額を差し引くと赤字です

令和7年度普通会計決算収支の状況

	令和7年度	令和6年度	増 減
歳入決算額 (①)	843億9,589万5千円	797億3,527万2千円	46億6,062万3千円
歳出決算額 (②)	829億9,451万3千円	782億1,791万5千円	47億7,659万8千円
形式収支 (③ = ① - ②)	14億 138万2千円	15億1,735万7千円	▲ 1億1,597万5千円
翌年度に繰越すべき財源 (④)	3億6,581万7千円	3億2,070万6千円	4,511万1千円
実質収支 (⑤ = ③ - ④)	10億3,556万5千円	11億9,665万1千円	▲ 1億6,108万6千円
単年度収支 (⑥ = ⑤ - 前年度の実質収支)	▲ 1億6,108万6千円	▲ 1,080万2千円	▲ 1億5,028万4千円
財政調整基金 (※) 積立金 (⑦)	6億1,104万9千円	714万4千円	6億 390万5千円
繰上償還金 (⑧)	-	3億7,775万 円	▲ 3億7,775万 円
財政調整基金取崩し額 (⑨)	14億 円	17億5,000万 円	▲ 3億5,000万 円
実質単年度収支 (⑩ = ⑥ + ⑦ + ⑧ - ⑨)	▲ 9億5,003万7千円	▲ 13億7,590万8千円	4億2,587万1千円

※財政調整基金…年度間の財源の不均衡を調整するための基金。自治体にとって、いわゆる「貯金」の役割を果たす。

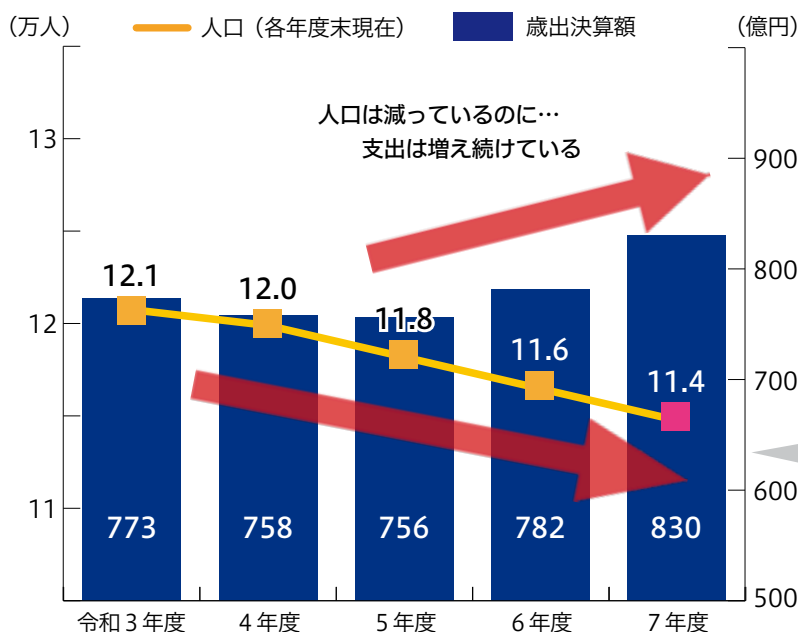
減り続ける人口、膨らむ支出

近年の本市の人口と歳出決算額の推移を見ると、人口が減少している一方で、歳出決算額は増加傾向にあることが分かります（グラフ①）。赤字決算が続いている主な要因は、物価高騰等によって扶助費や物件費などの支出が増加している（グラフ②）のに対し、人口減少の影響等で、市税や地方交付税といった主な収入の伸びが小さく、支出が収入を上回る状況が続いていることです。

一方で、事務事業の見直しによる経費削減や、投資事業の実施時期の調整が十分に進まなかったため、現在の厳しい財政状況を招く結果となりました。

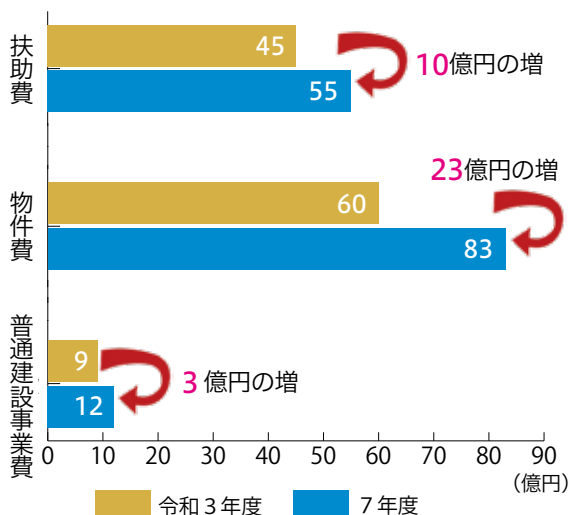
5年間で、
人口は
約7,000人減
歳出決算額は
約57億円増

【グラフ①】本市の人口と歳出決算額の推移



【グラフ②】支出が増えた主な経費（一般財源ベース）

主な増要因（増加額）



扶助費 〈生活保護費や児童手当など主に福祉サービス〉

- ・医療費の無償化を18歳まで拡大（1億5,842万円）
- ・障害者の自立支援に係る経費の増（7,439万円）
- ・生活保護費の増（3,567万円）

物件費 〈光熱水費や賄材料費、委託料など主に物の購入や委託〉

- ・学校給食費無償化に伴う増（4億1,731万円）
- ・助成する予防接種ワクチンの種類と対象者の拡大（9,299万円）
- ・松くい虫対策に係る経費の増（4,055万円）

普通建設事業費

- ・産業団地開発推進事業（3億4,140万円）
- ・道の駅あつみ移転整備事業（2,272万円）

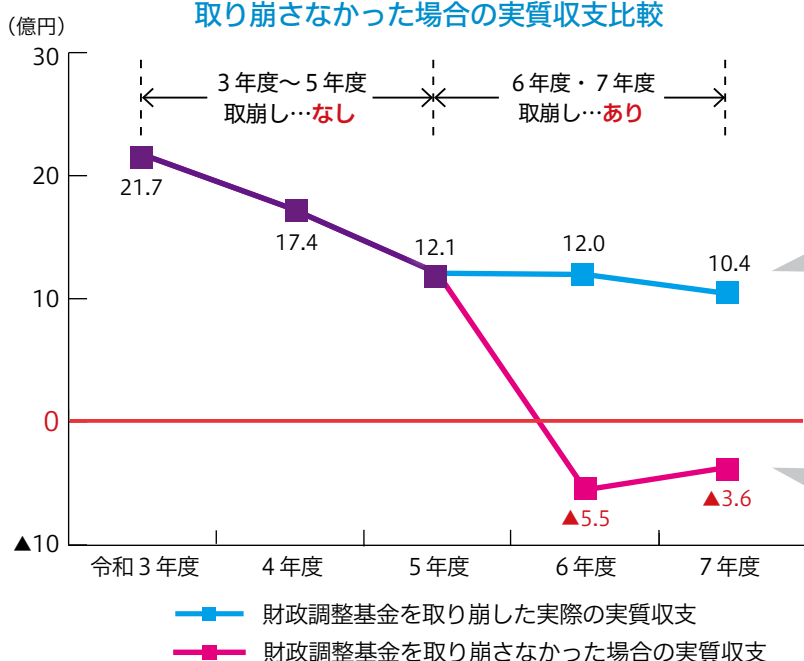
貯金を取り崩さないで「赤字」になる 厳しい財政状況です



令和6年度と7年度の決算は、数字の上では黒字（手元にお金が残っている状態）に見えます。しかし、これには、市の貯金（財政調整基金）を取り崩して穴埋めした分が含まれています。もし、貯金を取り崩さなければ、実質的には赤字でした（グラフ③）。

この状況を家計に例えると、「毎月の給料だけでは生活費が足りず、貯金を取り崩してやりくりしている」と同じです。このままでは、いずれ貯金が底を突いてしまうため、今後の事業や支出の見直しを計画的に進めていく必要があります。

【グラフ③】財政調整基金を取り崩した実際の実質収支と
取り崩さなかった場合の実質収支比較



黒字に見えるのは、貯金を取り崩して赤字になった分を補ったから

貯金を取り崩さなかったら…
6年度は5.5億円の赤字
7年度は3.6億円の赤字

財政調整基金って何？

年度によって生じる財源の不均衡を調整するために、財源に余裕がある年度に積み立てておく市の「貯金」です。

なぜ貯金が必要なの？

不況による税収減や、多額の支出が必要になる災害の発生など、不測の事態に備えるためです。

借金が増えるとうなるの？

借金（市債）自体は、大きな施設や道路などを整備するために必要な仕組みですが、借り過ぎると毎年の返済に追われ、子育てや福祉など毎日の暮らしを支える事業にお金を回せなくなってしまいます。

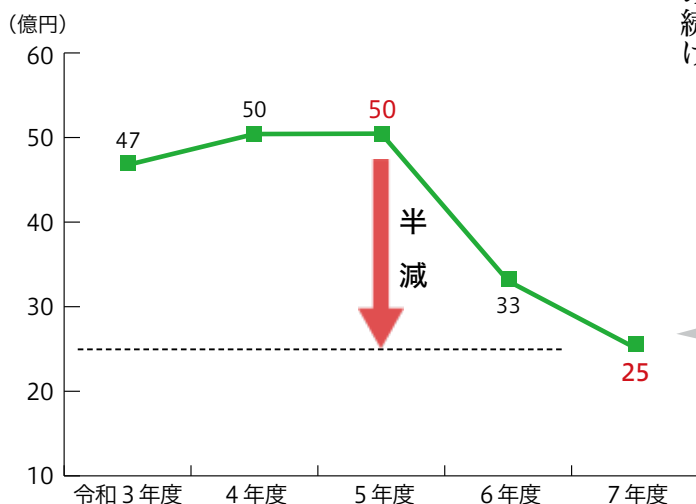
鶴岡市の未来を担う世代に過度な負担を残さないためにも、借金を抑え、健全な財政を取り戻す取り組みが必要です。



このままでは貯金が底を突く 2年間で半減した財政調整基金

市の貯金である「財政調整基金」が、令和6年度・7年度の僅か2年間で50億円から25億円に半減しました（グラフ④）。貯金は、災害や不況で税収が大きく落ち込んだときの命綱です。しかし、一度減ってしまった貯金を再び増やすには、とても長い年月がかかります。貯金に頼って赤字を埋め続ける財政運営を見直し、いざというときにも市民の暮らしを守るよう、財政の健全化に取り組みます。

【グラフ④】財政調整基金年度末残高



2年間で、貯金残高が50億円から25億円に半減

鶴岡市の台所事情 県内12市と比較してみました

本市の貯金と借金について、市民1人当たりの数字に換算し、本市を除いた県内12市と比べてみると、厳しい台所事情がよく分かります。この状況を改善するため、持続可能性を重視した財政運営を進めていきます。

「貯金」は12市平均の半分以上

12市の平均が5・5万円あるのに対し、鶴岡市は2・2万円しかありません（グラフ⑤）。

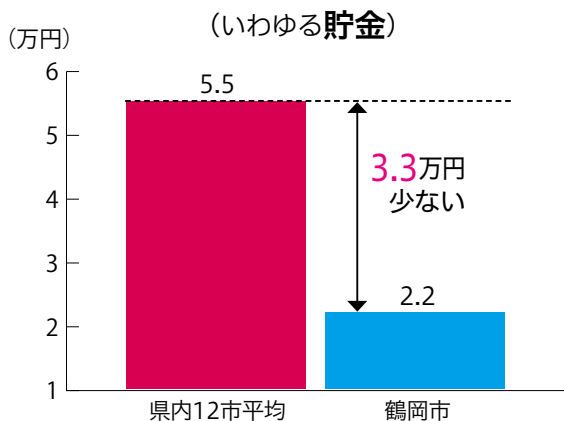
「借金」は12市平均を大きく上回る

県内12市平均が55・7万円であるのに対し、鶴岡市は60・2万円と、平均を4・5万円上回っています（グラフ⑥）。

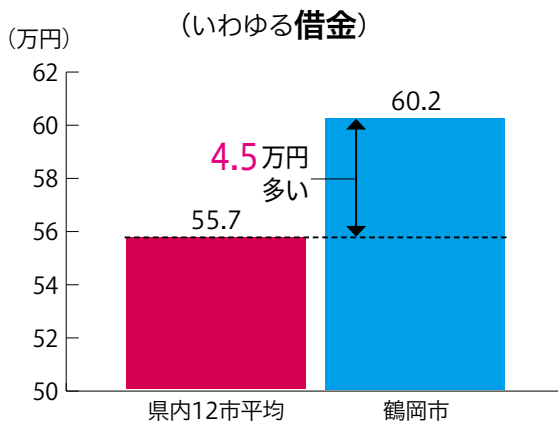
※本市を除く県内12市平均の数値は、各市決算状況カードから算出した速報値。



【グラフ⑤】1人当たりの財政調整基金残高



【グラフ⑥】1人当たりの市債残高



このままだと、私たちの生活はどう変わる？

財政調整基金は、災害が起きたときや、景気が悪くなったときなどに、私たちの暮らしを支える大切な貯金です。
しかし、このまま取崩しが続けば貯金が底を突き、市の運営に大きな影響を及ぼす可能性があります。具体的には、次のようなことが心配されます。

サービスの維持が困難になる

▼人口減少等による税収減を補えず、福祉や教育、インフラ維持等の住民サービスの水準を下げなければならなくなる。

緊急事態に対応できなくなる

▼災害が起きた場合、損壊した建物や道路などの応急復旧のための支出がすぐに行えなくなる。

▼急激な物価高騰や感染症の流行等が起きた場合、柔軟な対応が難しくなる。

自治体としての信用が得られにくい

▼大型事業などで借金をする場合、金利が高くなったり、金融機関からの融資条件が悪くなったりする。



現在、本市の財政健全化判断比率等の数値（下表）は、どの指標も早期健全化基準を下回っていますが、近年のような貯金の取崩しが続けば、いずれ基準を上回る可能性があります。

そうならないためにも、限られた財源を有効に活用し、貯金に頼り過ぎない、健全な財政運営への転換を進める必要があります。

令和7年度財政健全化判断比率等

地方公共団体の財政の健全度を示す指標として、以下の5つの指標を公表することが法律で定められています。どの指標も数値が低いほど健全度が

高い（良好）とされており、各比率が基準を超えた場合は、財政健全化計画や財政再生計画を策定し、健全化に取り組まなければなりません。

（単位：％）

指標	指標の意味	鶴岡市の数値	早期健全化基準 [黄色信号]	財政再生基準 [赤信号]
実質赤字比率	一般会計等における財政運営の悪化度合いを示す指標	赤字なし	11.43 (11.44)	20.00
連結実質赤字比率	地方公共団体全体の財政運営の悪化度合いを示す指標	赤字なし	16.43 (16.44)	30.00
実質公債費比率 (3か年平均値)	実質的な公債費による財政負担の程度を示す指標	8.1 (7.9)	25.0	35.0
将来負担比率	将来の財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標	69.5 (51.5)	350.0	
資金不足比率 (公営企業会計ごと)	公営企業ごとの経営状況の悪化度合いを示す指標	資金不足なし	経営健全化基準 20.00	

※カッコ内は前年度数値

持続可能な財政運営への転換 — 市民の暮らしを守り、未来へつなぎます —

安定した市民サービスを提供するために、財政基盤をしっかりと整え、鶴岡の未来に向けて、「新たな活力と価値の創造」を生み出す取り組みを進めます。
令和9年度の予算編成に当たっては、市債発行額を抑えつつ、スクラップ&ビルドを図りながら、事業の必要性や効果を確認します。また、来年3月には、令和9年度から13年度までの財政見通しを公表します。

財政の安定性の向上と 備えの強化

物価高騰など社会が大きく変化する中でも、安定的に市民サービスを提供できるよう、財政調整基金等の各種基金の取崩しを減らし、持続可能な財政運営に転換します。

将来負担を抑えた投資の継続

公共工事などの大きな事業を見直し、新たな借金（市債）を計画的に管理することで、未来の世代に負担を先送りせず、必要な投資を続けられる財政構造にします。

スクラップ&ビルドで 財源を創出

成果があまり出ていない事業、時代や市民のニーズに合わなくなった事業などを整理します。
その上で、子育て支援、地域の安全、産業振興など必要な施策に財源を配分します。

毎年度の点検と改善

財政見通しを年度末に見直すとともに、決算状況を踏まえ、改善の進み具合を確認します。

市民が未来に希望を描ける鶴岡へ

令和7年度の特別会計と企業会計の決算

特別会計 特定の事業を特定の収入で賄う会計。

会計名等	歳入決算額	歳出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
国民健康保険特別会計(事業勘定)	136億8,264万円	115億4,218万円	7億6,054万円	国民健康保険の運営
国民健康保険特別会計(直診勘定)	4,523万円	4,511万円	3,106万円	上田沢・大網診療所の運営
後期高齢者医療保険特別会計	21億2,085万円	21億1,653万円	5億6,188万円	後期高齢者医療保険の運営
介護保険特別会計	169億4,885万円	156億4,587万円	21億8,790万円	介護保険の運営
休日夜間診療所特別会計	5,912万円	5,910万円	3,136万円	休日夜間・休日歯科診療所の運営
墓園事業特別会計	1,529万円	156万円	—	鶴岡墓園等の管理運営

企業会計 民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計。

会計名等		収入決算額	支出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
病院事業	収益的収支	143億4,878万円	155億 448万円	12億2,434万円	病院事業の運営
	資本的収支	19億5,784万円	26億2,992万円	10億8,055万円	病院施設の整備等
水道事業	収益的収支	32億4,824万円	30億4,465万円	1,488万円	水道事業の運営
	資本的収支	9億2,660万円	17億9,643万円	1,588万円	水道施設の整備等
下水道事業	収益的収支	52億7,317万円	52億7,278万円	12億6,665万円	下水道事業の運営
	資本的収支	52億5,292万円	67億6,466万円	9億3,958万円	下水道施設の整備等

市民の皆様へ

日頃より、本市の市政運営に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本市はこれまで、豊かな自然や歴史、食文化、先端科学など地域が誇る価値を未来へ引き継ぐとともに、皆様が安心して暮らせるための様々な施策を推進してきました。

一方で、人口減少に伴う歳入の伸び悩みに加え、人件費や物価の高騰等により歳出は増え続けており、市の貯金に当たる「財政調整基金」を取り崩して補う厳しい状況が続いています。

こうした本市財政の現状と課題を、まずは市民の皆様としっかり共有し、同じ視点に立ってまちづくりを進めることが何より大切であると考えています。そして、私の使命は、厳しい財政の状況に真剣に向き合い、健全化への確かな道筋をつけることです。

今後は、一つひとつの事業の目

的や効果を確かめ、継続する事業と見直す事業を丁寧に整理しながら、限られた財源を真に必要な分野へと適切に配分してまいります。公共施設整備なども、将来の負担に配慮しながら持続可能な形で進めてまいります。こうした取り組みを踏まえた予算案を作成し、市議会での議論と議決を経て決定してまいります。

鶴岡には、互いに助け合う温かい地域性と、未来を切り開くすばらしいポテンシャル（可能性）が満ちています。現状と課題を皆様と共有しながら、健全でしなやかな財政へと転換を図り、「市民の誰もが未来に希望を描ける鶴岡」の実現に向けて着実に歩みを進めてまいります。



鶴岡市長
佐藤 聡

